

令和4年度

事業報告書

社会福祉
法人

和歌山市社会福祉協議会

令和4年度 事業報告書

コロナウィルス感染症への対応が日々変化し、社会生活も徐々に以前の状態に戻りつつあるなか、未だ多くの市民が生活困窮や地域からの孤立など様々な課題を抱えています。また、燃料費や物価高騰により、さらに市民生活が脅かされています。

国においては、地域における相談支援に重要な役割を果たす、生活困窮者自立支援制度の見直し検討も進められ、生活福祉資金貸付事業の緊急小口資金等の特例貸付事業については、令和2年3月以降10回にわたり延長され、長期にわたり貸付を行ってきましたが令和4年9月末をもって終了し、令和5年1月から償還が始まりました。

本会では、県社協と連携して生活に困窮した市民への緊急小口資金等の貸付を行った世帯に対しては、貸付後のフォローアップや相談支援を実施するとともに、重層的支援体制整備事業としての多機関協働による地域福祉推進事業を継続して、緊急的に支援が必要な方やその方々を支援する団体等に対し、食糧などの物資を提供することによる生活再建に向けた支援などを行いました。

また、第4次地域福祉活動計画の3年目を迎えたが、コロナ感染症の影響により変更を余儀なくされた事業などを再構築し、和歌山市地区社会福祉協議会などの地縁団体と連携しながら各地区の状況に応じた地域福祉の推進に努めました。

事業の実施状況については、次のとおりです。

1 法人の運営

(1) 法人の運営

① 理事会・評議員会・各種委員会の開催

ア 理事会の開催（4回のうち1回書面による決議）

- 令和 4 年 6 月 6 日
- 令和3年度事業報告及び計算書類の承認について
 - 令和4年度定時評議委員会の招集について

※報告事項 会長の職務執行状況報告について

- 令和 4 年 12 月 15 日
- 理事候補者の推薦について
 - 評議員候補者の推薦について
 - 令和4年度12月補正資金収支予算の承認について
 - 令和4年12月評議員会の招集について
 - 心配ごと相談所の閉所について

- 令和 4 年 12 月 26 日
- 副会長の選任について（書面による決議）

令和 5 年 3 月 9 日

- ・令和4年度3月補正資金収支予算の承認について
 - ・令和5年度事業計画の承認について
 - ・令和5年度資金収支予算の承認について
 - ・事務局規程の変更について
 - ・経理規程の変更について
 - ・令和5年度業務請負契約に関する事項について
 - ・令和5年3月評議員会の招集について
 - ・介護事業所の今後の運営について
- ※報告事項 会長の職務執行状況報告について

イ 評議員会の開催（3回）

令和 4 年 6 月 24 日
令和 4 年 12 月 26 日

- ・令和3年度事業報告及び計算書類の承認について
- ・理事を選任する件
- ・令和4年度12月補正資金収支予算の承認について
- ・令和4年度3月補正資金収支予算の承認について
- ・令和5年度事業計画の承認について
- ・令和5年度資金収支予算の承認について

ウ 決算監査の開催

令和 4 年 5 月 17 日

- ・令和3年度事業及び法人会計決算について、監事による監査を受け、その結果いずれも適正に処理されていることの承認を得た。

エ 正・副会長会議の開催（3回）

令和 4 年 5 月 18 日
令和 4 年 12 月 8 ・ 9 日
令和 5 年 2 月 24 日

- ・第1回理事会及び定時評議員会提出議案について協議
- ・第2回理事会及び第3回理事会、12月評議員会提出議案について協議
(正・副会長個別訪問)
- ・第4回理事会及び3月評議員会提出議案について協議

オ 評議員選任・解任委員会（1回）

令和 4 年 12 月 15 日

- ・民生委員の一斉改選等による評議員の欠員補充。13人の評議員が選任された。

② 事業の総合的企画立案

地域福祉活動計画の3年目にあたり、計画に沿った事業の実施に努めたが、コロナウィルス感染症により活動が制限され、計画に沿った事業の実施が困難となり現状にあわせた実施となった。

発推進の広報を行った。

(4) 第4次地域福祉活動計画の推進

- ① 地域福祉活動計画の3年目にあたり、計画に沿った事業の実施に努めたが、コロナウイルス感染症により活動が制限され、計画のとおりの実施が困難となり現状にあわせた実施となった。
- ② 地域福祉活動計画の進捗状況の管理を行った。

(5) 善意銀行の運営

本年も多くの市民の暖かい善意により、19件 1,787,822円の寄付金（大口一般寄付金含む）が寄せられ、次の関係の事業等に配分した。

また、本会の広報紙において善意銀行をPRし、寄付協力の啓発を行うとともに寄付者を掲載した。

① 高齢者福祉への支援

長寿者及び高齢者福祉施設入所者に対する敬老訪問並びに激励

令和4年9月の敬老月間に伴い、和歌山市地区社会福祉協議会と連名で新100歳の長寿者（136人）に長寿祝品と市内の高齢者福祉施設（41箇所）に、敬老祝品を贈呈した。

なお、市社会福祉協議会会长、市民生委員・児童委員協議会会长、市地区社会福祉協議会会长による長寿者の代表者宅への激励訪問は、コロナウイルス感染症の影響により中止した。

② 障がい者（児）福祉への支援

和歌山市並びに和歌山市障害児者父母の会の主催による「第36回和歌山市障害児者親子のつどい」が、令和4年5月12・13日愛知県（明治村）・長野県（木曽路）を巡る一泊二日の旅として開催され、その事業に側面から協力した。

③ 児童福祉への支援

ア 児童福祉週間（5月5日～11日）に伴い、児童養護施設を中心に児童福祉関係施設5箇所を激励訪問した。

イ 児童養護施設に入所する「小・中学校入学並びに中学校卒業」児童・生徒を激励訪問し、小学校に入学する児童7人、中学校に入学する児童13人、中学校を卒業する生徒14人に対し激励の記念品を贈呈した。

ウ 和歌山市民生委員・児童委員協議会の主催による「民児ふれあいの日」が開催され、その事業に側面から協力した。

2 共同募金運動及び配分事業の実施

(1) 共同募金運動の推進

① 共同募金活動への協力支援

令和4年10月1日から令和5年3月31日までの運動期間において、各地区の連合自治会、民生委員・児童委員協議会、

地区社会福祉協議会等関係団体を始め、学校、職域等多数の市民の協力により募金活動に取り組んでいただいた結果、本年度目標額 35,769,000 円に対し、実績額 30,023,578 円（達成率 83.9%）の募金が集められた。また、前年度募金実績に対して、和歌山県共同募金会配分委員会において配分額が決定され、当協議会へ 12,077,000 円の配分があり、地域福祉推進のための事業に配分を行った。

② 地域歳末たすけあい運動の推進

令和4年12月1日から12月31日までの一か月間に市内7地区で実施され、総額 2,447,461 円の募金を各地区的社会福祉協議会、連合自治会、民生委員・児童委員等から社会福祉施設や地域福祉事業等に配分された。

③ 赤い羽根自動販売機設置の支援

年々減少している一般募金の対策として、誰もが気軽に募金ができる赤い羽根自動販売機の設置拡大を図った。

令和4年度末 設置台数 36台

(2) 一般募金配分金事業の実施

地域福祉活動、高齢者福祉、障がい者（児）福祉、児童福祉、保育協議会活動など各種福祉団体への支援を行った。

また、共同募金の配分金を活用した特別事業として、次の事業を行った。

① 学生への支援としてフードパントリーの開催

長引くコロナ禍において、アルバイトの打ち切りや物価の高騰により、生活面に不安を抱える学生を支援するためのフードパントリーを近隣の大学の学生を対象に3日間開催し、360人に対し食料品や日用品の配布及び心配ごと相談などの支援を行った。

② 子育て世帯への支援として緊急的生活支援サービスを実施

子育てをしている家庭に対し、食料品をはじめ文房具や生活用品の無料配布会を開催し、物品の提供を行った。

③ 子育て世帯への支援として子ども食堂への特別配分を実施

市内で子ども食堂を実施している団体等に特別配分の募集を行い、申請のあった9団体に対し特別配分を行った。

④ ボランティア団体への支援として特別配分を実施

和歌山市ボランティア連絡協議会主催で令和5年2月23日に開催されたボランティアフェスタに対し特別助成を行った。

⑤ チャイルドシート等貸出事業の準備

令和5年度の実施に向けチャイルドシート・ベビーカーの貸出事業の準備を行った。

(3) 社会福祉大会の開催

コロナウイルス感染症の影響により、社会福祉大会を社会福祉功労者表彰式に変更し、令和4年11月8日和歌山城ホール小ホールにおいて規模を縮小し開催した。式典では、社会福祉に功労のあった地区社会福祉功労者24人・1団体、社会福祉団体功労者3人、模範老人23人に対し表彰状を贈呈し、社会施設協力者1団体に対し感謝状を贈呈した。

3 福祉総合推進事業の実施

(1) 各種研修の実施

社会福祉協議会職員研修要綱に基づく職員研修委員会を開催するとともに、職場研修については全職員を対象とした人権（同和）研修及びメンタルヘルス対策の研修を行った。また、専門研修及び自主研修については各自参加した。

(2) 障がい者（児）福祉事業の実施

① おもちゃや図書館の実施

実施回数 12回 利用者数 延べ22人

② カローリング、フライングディスク体験教室の実施

実施回数 各12回 利用者数 カローリング延べ41人、フライングディスク延べ29人

(3) わかやまし社協まつりの開催

市民の方々に地域福祉の理解と関心を深めていただくことを目的に、多くの関係機関・団体の協力のもと、令和5年3月12日「第16回わかやまし社協まつり」をあいあいセンターにおいて、約1,000人の参加を得て開催した。

4 地域福祉活動の推進

(1) ふれあいのまちづくり事業（多機関協働による地域福祉推進事業）の実施（和歌山市からの受託事業） (P. 21 参照)

① 小地域ネットワークづくり事業の推進

ア ふれあい食事サービス事業の開催

65歳以上のひとり暮らし高齢者を対象に、孤独感の解消、安否確認、ニーズ発見等を目的として、新規2地区を含む23地区で延べ78回実施した。新型コロナウイルス感染拡大の影響により、従来の会食を行うことが難しく、15地区が配食を取り入れ、事業展開を行った。

イ ふれあい・いきいきサロンの開催

高齢者や障がい者、就学前の子育て中の親子を対象に、当事者間の交流の場づくり、自立生活の助長や社会的孤独感の解消等を目的として、新規1地区を含む24地区で実施した。

② ふれあい福祉事業の推進

ア ふれあい広場（三世代交流イベント）の開催

地域に住む高齢者、子ども、若年層等のさまざまな人達がイベントを通じて知り合い、語り合い交流して地域社会への理解と関心を深めて、誰もが住みやすい、心のふれあいのあるまちづくりに役立てることを目的に、13地区で実施した。

イ ふれあい在宅ケアの集いの開催

コロナウィルス感染症の影響により、在宅においても健康を維持するため、介護予防の取り組みを目的として、4地区で実施した。

ウ 高齢者料理教室の開催

65歳以上の高齢者を対象に、簡単につくれ、食べやすいメニューの調理実習を行い、毎日の食事づくりの参考にすることを目的に1地区で実施した。

③ 重層的支援体制整備事業（地域づくり事業）の取り組み

ア 地域の各種団体と連携し地域住民の困りごとを発見して受け止める体制づくり

配食活動を取り入れた地域では、一人暮らしの高齢者宅を一軒一軒訪問し、生活状況の聞き取りをする中でニーズ把握ができた。

イ 住民同士の見守り、支え合いの取り組みの活性化を推進

各種団体の協力により、コロナウィルス感染症の影響で低迷しがちな飲食店等と連携し、見守りにつながる配食活動を行った。また、コロナウィルス感染症の影響や物価高への対応として、ふれあいのまちづくり事業へのコロナ特例活動支援を実施した。

④ 心配ごと相談事業の実施

ア 心配ごと相談所の運営

毎週月曜日・水曜日・金曜日に心配ごと相談所を開設した。ただし、コロナウィルス感染症の影響により、相談対応は当会職員で対応した。

なお、この事業の相談窓口を福祉総合相談事業で対応することとなったため、令和5年3月末で閉所した。

開設日数：142日 相談件数：16件

(P. 22 参照)

イ 心配ごと相談員研修会の開催

心配ごと相談員研修会を予定していたが、コロナウィルス感染症の影響により中止した。

(2) 地域福祉活動推進事業の実施

① 地区社会福祉協議会の活動支援

市内42地区社会福祉協議会の活動支援や和歌山市地区社会福祉協議会の事務局運営を行った。また、三役会を年3回、役員会及び会長会をそれぞれ年4回開催し、各地区の活動状況や活動の方向性などについて協議した。

② 各種研修会の開催

ア 障がい児相談員研修会の実施

令和5年2月7日に、ウェルビーイング・コンサルティング・オフィス代表 寺田尚平氏を招き、障がい児相談員研修

会を開催し、障がい児に対する適切な情報の提供と助言が行えるよう研鑽を図った。

イ 地域ボランティアコーディネーター研修会の実施

令和4年9月15日、22日、10月6日、27日に地域ボランティアコーディネーター研修会を予定していたが、コロナウィルス感染症の影響により中止した。

③ 地域福祉活動の人材育成

各地区でさまざまな事業を実施する中で、地域活動等に携わっていただける人材の発掘や育成に努めた。

(3) ボランティア活動の推進

① ボランティア活動基盤整備

ア ボランティアに関する相談、情報提供、情報収集、登録、斡旋

ボランティアに関する相談や情報の提供、登録、斡旋を行った。令和4年度ボランティア登録者3人 計248人。

イ ボランティア活動保険の加入促進

ボランティアが安心して活動できるようにボランティア保険加入の促進を行った。活動保険加入件数は、2, 345件であった。

ウ コーディネーターのスキルアップ

コーディネーター業務を円滑に実施できるよう、和歌山県内の社協と交流を図り、スキルアップの向上に努めた。

② 次世代ボランティアの育成と確保

ア 夏のボランティア体験学習の開催

誰もが参加できるボランティア活動のきっかけづくりを目的に、令和4年8月5日・17日・19日・23日・27日に「夏のボランティア体験学習」を開催した。中学生・高校生の参加者40人が、衛生材料作りや、子どもや高齢者とのふれあい、視覚障がい者（児）の手引きや布絵本作りを各施設にて体験した。

イ 次世代ボランティア養成講座の開催

和歌山信愛大学より、ボランティア活動についての講義依頼があり、災害時にも助け合える次世代ボランティアとしての心がまえや、コロナ禍での災害ボランティア活動の対応等について令和4年6月28日に講義を行った。

ウ ボランティア登録者の活動支援

ボランティア同士の交流を図り、ボランティアの輪を広げていくことを目的に7月・12月に和歌山市内の公園等でクリーン作戦を行った。

エ おもちゃ病院の実施

おもちゃの治療（修理）を通して、子どもたちに物を大切にする心を育んでもらうと同時に、世代間の交流を図り、笑顔で暮らす地域づくりを目的に「おもちゃ病院」を毎月第1土曜日（5月、8月、1月は休診）に開催した。今年度は、

171個のおもちゃを預かり、146個を完治治療した。

また、月に一回、おもちゃドクターが集まり、おもちゃの修理の仕方などの勉強会を行った。

③ 福祉教育の推進

福祉教育を推進していくうえで、学校を拠点に住み慣れた地域で、子どもたちと地域の方々がつながり一緒に考え方を合うことで、他人を思いやる心や優しさ、相手の立場になって考え、共感することのできる温かい心を育んでもらい、誰もが安心して暮らせる地域づくりを目的に、今年度は、和歌山市立加太中学校、和歌山市立三田小学校、和歌山市立雜賀崎小学校、和歌山市立西脇小学校の4校で、点字体験、手話体験、車いす体験、高齢者疑似体験、避難所体験や障がい者スポーツ体験などを行った。

④ 災害に強い支援体制づくり

ア 災害ボランティアセンター設置運営に係る体制の確立

令和4年11月3日和歌山大学構内で和歌山大学災害科学・レジリエンス共創センターと和歌山青年会議所と合同で、平常時の連携強化と災害時にも強いまちづくりを目的に、61人の参加のもと災害ボランティアセンター設置運営訓練を実施した。

イ 災害ボランティアの確保と支援

令和元年度に創設した災害ボランティア事前登録制度で災害ボランティアの確保を行い、令和4年度までの総登録者は46人となった。

ウ 県社協、県内の市町村社協及び関連機関との連携体制の確立

県社協に登録している災害ボランティアセンター運営支援中核者として、訓練や研修会実施に係る事前準備会議等に参加し、県社協及び県内市町村社協等と連携強化を図った。

エ 行政及び関係機関との連携強化

令和4年5月31日に国立大学法人和歌山大学災害科学・レジリエンス共創センターと、令和4年10月24日に和歌山市とそれぞれ和歌山市で大規模災害が発生した場合に、相互の連携及び協力体制を図ることを目的とした災害支援協定を締結した。

オ 災害ボランティアセンター運営支援者（中核スタッフ）の養成

令和4年11月26日、県社協主催の広域・同時多発災害対応訓練（訓練会場：日高川町）に本会職員6人が参加し、災害ボランティアセンター設置運営に係る中核スタッフとしての知識の向上と県内社協職員との交流を図った。

（4）生活支援体制整備事業の実施（和歌山市からの受託事業）

地域住民が主体となり、高齢者の社会参加や生活支援、介護予防の充実を図り、住み慣れた地域で生きがいを持って在宅生活が送れるように高齢者を支える体制づくりを目的として、次のとおり実施した。

① 第1層生活支援コーディネーター業務

ア 第1層協議体の運営

令和5年3月9日に第1層協議体会議を開催し、第1層及び第2層各圏域の進捗状況等を報告した。

イ 第2層協議体の運営支援

各圏域で開催された第2層協議体会議や行事に参加し、地域とのつながり強化に努めた。

ウ 第2層生活支援コーディネーターと連携及び活動支援

毎月1回生活支援コーディネーター（15圏域）と合同連絡会議を開催し、第2層生活支援コーディネーターと情報交換や各圏域の課題の抽出、解決方法を協議し連携強化を図った。

エ 関係機関とのネットワークの構築

地区社会福祉協議会、民生委員・児童委員協議会、老人クラブ連合会、地域包括支援センター、自立相談支援機関等の関係機関との連携を強化し、ネットワークの構築に努めた。

② 第2層生活支援コーディネーター業務

ア 第2層協議体の運営と支援

第1、第2、第3、第7、第12、第13圏域での地区行事や活動に積極的に参加し、各圏域の地域包括支援センターと連携しながら、地域とのつながりを強化した。

イ 担当圏域における新たな居場所の創出

担当圏域内で延べ32回協議体会議を開催し、他圏域のコーディネーターと連携しながら新たな居場所の創出に取り組んだ。

5 生活支援事業の推進

（1）生活福祉資金貸付事業の実施（県社協からの受託事業）

① 資金貸付及び償還指導

生活困窮になっている低所得者、障がい者及び高齢者世帯を対象に相談と必要に応じ貸付を実施した。

貸付件数28件 貸付調査委員会の開催 1回 (P. 23 参照)

民生委員の協力のもと借受世帯への相談支援や県社協との連携による長期滞納者世帯の現況調査、滞納世帯への督促を行った。

② 相談支援の推進

民生委員、自立支援相談機関と連携し相談者への自立に向けた相談支援の推進を図った。

- ③ 生活福祉資金貸付制度における緊急小口資金等の特例貸付の実施（コロナウイルス感染症の影響による緊急対応）
コロナウイルス感染症の影響により、収入の減少等があった世帯への資金需要に対応するため、生活福祉資金貸付制度の緊急小口資金及び総合支援資金（初回、延長、再貸付）について、特例措置を実施した。（9月末をもって受付終了）
令和4年度決定件数 緊急小口資金 362件 総合支援資金 349件
- ④ フォローアップ支援の実施
特例貸付を受けた世帯で償還免除となった世帯に対して訪問活動を中心にフォローアップ支援を令和4年10月から実施した。 訪問支援 744件 電話相談 694件 合計 1,438件

(2) 福祉サービス利用援助事業の実施（県社協からの受託事業）

① 福祉サービス利用援助事業実施状況

判断能力が不十分な高齢者や知的障がい・精神障がいのある方など日常生活を営むのに支障がある方との契約に基づき、福祉サービス利用に関する相談に応じ、助言を行い、福祉サービスの利用のために必要な手段及び適切な利用に関する一連の援助を行った。

利用状況

対象者	高齢者	知的障がい者	精神障がい者	その他	合 計
利用者数	37	35	42	4	118
新規契約者数	8	5	3	1	17
契約解約者数	10	5	5	1	21

相談件数

対象者	高齢者	知的障がい者	精神障がい者	その他	合 計
件 数	39	21	17	6	83

② 専門員・生活支援員の育成、研修

専門員の専門知識習得のための研修会に参加した。生活支援員養成講座については、コロナウイルス感染症の影響により中止となつた。

(3) ふれあいサービス事業（住民参加型在宅福祉サービス）の実施

ふれあいサービス事業は、サービスを利用する人とサービスを行う人がお互いに会員になり、年齢や公的サービス利用の有無にかかわらず、「困ったときはお互いさま」の気持ちで在宅において主に家事援助を行う社協独自の福祉サービスで、次のとおり実施した。

イ 福祉生活環境改善プロジェクト

ゴミ屋敷などの不衛生な生活環境下で生活することにより、当事者の心身や生活に悪影響を及ぼし、地域からの孤立など多様な課題を抱える世帯に対し、関係機関や地縁組織と協働し、住居の片づけやゴミ出しなど生活環境を整えた。

③ 参加支援事業

- ・既存の制度では対応できないニーズに対応するため、地域の社会資源などを活用して社会とのつながりや役割を作るための支援を行った。
- ・本人の課題などを丁寧に把握し、ボランティア活動の参加や就職に向けて企業などとのマッチングを行った。
- ・誰もが地域で活躍できる場として、ふれあいサービス事業を活用し広報啓発した。

件数 6 件

④ 地域づくり事業

支え手、受け手の関係を超えて、一人一人が地域の一員として参加できる地域づくりを目指し、支援が必要な人と地域とのつながりを確保できる基盤づくりとして、ふれあいのまちづくり事業を活用して支え合い、助け合いの地域づくりに取り組んだ。

⑤ 福祉総合相談の実施

- ・複雑・複合的な問題を抱える個人・世帯に対する包括的な相談支援を行った。

電話 83 件、来所 23 件、LINE 3 件、その他 4 件 合計相談件数 113 件

(P. 22 参照)

6 介護サービス事業の推進

(1) 居宅介護支援事業所の運営

① 居宅介護支援事業の実施

ア 介護保険にかかる相談業務の実施

イ ケアプランの作成 485 件 (月平均 40 件)

ウ 給付管理業務の実施

エ 介護予防給付ケアマネジメント事業の実施

予防給付の対象者（要支援 1・2）に、介護予防ケアプラン作成業務の実施

プラン数 318 件 (月平均 27 件)

② 要介護認定訪問調査事業の実施（和歌山市からの受託事業）

調査件数 3 件

(2) 訪問介護事業所の運営

① 訪問介護事業の実施

ア ケアプランに基づく身体介護・生活援助等自立援助業務の実施

利用人数	360人	(月平均 30人)
訪問回数	3,785回	(月平均 315回)
サービス提供時間数	4,194時間	(月平均 350時間)

② 介護予防・日常生活支援総合事業（訪問型サービス事業）の実施

ア 予防給付型訪問サービスの実施

利用人数	37人	(月平均 3人)
訪問回数	403回	(月平均 34回)
サービス提供時間数	403時間	(月平均 34時間)

イ 生活支援型訪問サービス（緩和型サービス）の実施

利用人数	553人	(月平均 46人)
訪問回数	3,035回	(月平均 253回)
サービス提供時間数	3,035時間	(月平均 253時間)

③ 居宅介護事業（障害福祉サービス）の実施

ア 身体介護、家事援助、通院介助等自立援助業務の実施

利用人数	208人	(月平均 17人)
訪問回数	1,606回	(月平均 134回)
サービス提供時間数	2,043時間	(月平均 170時間)

イ 重度訪問介護業務の実施

利用人数	24人	(月平均 2人)
訪問回数	297回	(月平均 25回)
サービス提供時間数	565時間	(月平均 47時間)

ウ 同行援護業務の実施

利用人数	79人	(月平均 7人)
訪問回数	325回	(月平均 27回)
サービス提供時間数	704時間	(月平均 59時間)

エ 行動援護業務の実施 利用者なし

(2) ふれ愛センターの管理運営（和歌山市からの受託事業）

① ふれ愛センターの管理

ふれ愛センター貸館利用状況（※使用料は和歌山市へ納入）

区分		福祉団体（無料）	高齢者団体（無料）	一般団体（有料）	合計
会議室	回	1,449	798	23	2,270
研究室	回	423	86	0	509
教養文化室	回	108	451	0	559
合計	回	1,980	1,335	23	3,338
使用料収入	円	0	0	63,345	63,345

② ふれ愛事業の実施

心身障がい者が事業に参加することにより、心身の鍛錬をすると共に、心身障がい者に対する地域住民の理解と認識を深め、心身障がい者の福祉の向上を図ることを目的として実施した。

ア センター事業

- (ア) ふれ愛交流会 令和5年2月12日（日）
バリアフリー映画「愛を積むひと」
参加者 23人（障がい者及び介助者）
- (イ) ふれ愛作品展 令和5年3月3日（金）～3月5日（日）
出品数 207点
(内訳) 機能回復訓練23点・書道31点・編物37点・華道3点・陶芸59点・点字11点
着物着付け7点・絵画12点・聴覚パソコン6点・パソコン教室（ワード）9点
パソコン教室（エクセル）9点
出品者数 87人
来場者数 150人
- (ウ) 障がい児親子工作教室
令和4年8月20日（土）
「光り・回る・UFO型オブジェ」
参加者 3組6人

(エ) 障がい者絵手紙教室

令和4年9月3日（土）

参加者 6人

イ 障害者いきいき事業の実施

コロナウイルス感染症等により、教室の受講人数を減らし開催した。

(P. 25 参照)

③ 意思疎通支援奉仕員養成講座事業の実施

点訳、朗読講座の開催

講座実施状況

講座名	実施回数	受講者数(人)	延べ受講者数(人)	修了者数(人)
点訳	20	5	34	1
朗読	23	12	212	9
合計	43	17	246	10

8 団体事務局の事務の実施

和歌山市地区社会福祉協議会、和歌山市民生委員・児童委員協議会、和歌山市ボランティア連絡協議会、和歌山市老人クラブ連合会、和歌山市共同募金委員会、日本赤十字社和歌山県支部和歌山市地区、和歌山市遺族連合会、和歌山市戦災遺族会の事務局業務を実施し、各団体活動への支援を行うとともに相互に連携し地域福祉の向上や福祉課題の解決に取り組んだ。

生活福祉資金資金別貸付状況

資 金 名	費 目	申込件数	申込元金額(円)	貸付件数	貸付元金額(円)
総 合 支 援 資 金	生 活 支 援 費	2	369,100	2	369,100
	住 宅 入 居 費	0	0	0	0
	一 時 生 活 再 建 費	0	0	0	0
福 祉 資 金	福 祉 費	16	1,876,959	16	1,876,959
	緊 急 小 口 資 金	1	100,000	1	100,000
教 育 支 援 資 金	教 育 支 援 費	5	8,812,800	5	8,812,800
	就 学 支 度 費	4	1,576,600	4	1,576,600
不動産担保型生活資金	不 動 產 担 保 型 生 活 資 金	0	0	0	0
	要保護世帯向け不動産担保型生活資金	0	0	0	0
合 計		28	12,735,459	28	12,735,459

